

第4分科会：総合的な学習の時間と学社融合

コーディネーター：江口 勝善（千葉県小学校長）

1 <情報化を手がかりにした学社融合>

発表者：野沢 令照（宮城県仙台市）

（発表方法）資料とパワーポイントによるプレゼンテーション

（発表内容）

きっかけは、地元の方からパソコンをもらったこと



校内LANで繋がる

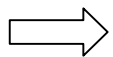
（仙台シニアネットボランティアの協力による）

校内でメールのやりとりが始まる



他県の学校との交流学習が始まる

地域に学校を開放し、パソコン教室を開く（地域の人々もボランティアとして参加）



結果として、“情報化を手がかりに新たな伝統づくり”ができた
基点は、子どもたちにいい物を与えたいという願い

（地域との関係）


子ども達を地域へ出していく



子どもたちの姿（笑顔）を見てもらう



地域の人々と関わる場面を多く作ることで協力と支援が得られた

学校のパソコンを開放する  地域に学校開放を進めていく

（授業における情報の活用）

“ネットワークを利用した遠隔共同学習”

〔おにぎり総合学習〕

宮城（お米を送る） 和歌山（梅干を送る）

ネットを利用して、離れた二つの学校が同時に画面を見ながら
おにぎりを作った

2 < 富士山学習による学社融合 >

発表者：大塚 俊宏（静岡県富士宮第二中学校教諭）

（発表方法）資料とパワーポイントによるプレゼンテーション

（発表内容）

「富士山学習」 もっと知りたい、体験したいということから始まった
理科の先生による富士山の話 □→ もっと知りたいという感想が多かった
□→ 内容に豊かさがあれば子どもは興味をもつ □→ 学習意欲

「スローガン」 “知りたい” “学びたい” “共に生きたい”
□→ 郷土を大切に思うこと

（地域から学校へ）

- ・生涯学習課から1時間あたり1,700円の謝金
- ・公民館、地域学習センターとの連携
- ・出前講座の活用

（学校から地域へ）

- ・富士山学習の課題に基づき、生徒が地域へと出て見学をしたり、地域の活動に参加する

（学習効果）

- ・リアリティーがある
- ・地域の人々との関わりの中から学んでいく（人と人の中にある知を探究）
□→ 自己実現 □→ 生涯学習そのものではないか
- ・まちづくり、地域コミュニティを支える
- ・人々の学習観を変える
- ・学社融合の再確認につながる

（学習の利点）

- ・明日の市民を育てる
- ・市をあげて取り組むことで、市民が総合的な学習に理解をしてくれる
□→ 学力の低下が問題になる中で、このような総合学習が子ども達の学力を伸ばしていくことを親たちが理解してくれる

（安全面の問題） 行政の講習に期待（現在はPTA会員になればお金が出る）

（表現方法の指導） ・パワーポイントでのプレゼンテーションの指導
・今後はホームページの作成指導も行ないたい

3 <学校と博物館の連携 - 出前講座・出前観察会>

発表者：荻原 美弘（静岡県 石の博物館副館長）

（発表方法）資料とパワーポイントによるプレゼンテーション

（発表内容）

- ・博物館の持っている **物**・**情報** を授業で活用してもらう
- ・出前講座・出前観察会の実施
平成12年度 11校30学級
平成13年度 14校32学級

（内 容）

- ・地震、火山、岩石などについて
- ・実験を取り入れ、生徒全員参加の授業
- ・五感を使った授業

（課 題）

- ・打合せ不足
- ・現在はゲストティーチングになってしまっているが、今後は教師も一緒に指導に参加するようにしていきたい
- ・全てのノウハウと資料を教師に提供したい（教師への指導を進めていきたい）